

# LibGuidesの導入と活用

## －全塾レファレンス担当者会議の取り組み－

さとう やすゆき  
佐藤 康之

(三田メディアセンター課長)

おかもと ひじり  
岡本 聖

(三田メディアセンター主任)

みたに み え こ  
三谷三恵子

(信濃町メディアセンター主任)

せき きょうこ  
関 恭子

(薬学メディアセンター主任)

### 1 はじめに

LibGuidesとは、米国Springshare社が開発・提供する、特定のテーマに沿った情報探索ガイドの作成を容易にするウェブ上のサービスである<sup>1)</sup>。ここでいうガイドとは、データベースやウェブサイトなどの電子リソースへのリンクや参考図書・雑誌タイトルをはじめとする紙媒体資料の所蔵情報などに簡単な解説を付加してまとめたウェブページを指す。LibGuidesは、特定のテーマの情報を探索する利用者に対して、図書館が最適なナビゲーションを提供するツールとして位置付けることができる<sup>2)</sup>。

Springshare社のウェブサイト<sup>3)</sup>によれば、2015年7月末現在でLibGuidesを利用している機関は全世界で約4,800機関、ガイド製作に関与していると思われる図書館スタッフは約66,000人、そして約430,000件のガイドが提供されているという。ガイドという形であたかも図書館の集合知を形成している状況で、国内でも2校の国際ショナルスクールを含め、15機関がLibGuidesで作成した何らかのガイドページを公開している。

本学メディアセンターの全塾レファレンス担当者会議<sup>4)</sup>(以下、担当者会議)においても2012年のトライアル開始以来、LibGuidesを利用した様々な取り組みを続けている。本稿では導入の経緯やこれまでの取り組みを紹介する。

### 2 導入の目的と経緯

LibGuidesを導入する以前、主に利用指導に使用するウェブ上のガイドは、各メディアセンターのレファレンス担当者が個別に作成していた<sup>5)</sup>。ガイドとして提供する内容は、学内の図書・雑誌の探し方などメディアセンター間で重複するものも多く、こ

れらをメディアセンター毎に作成するという作業には無駄が生じていた。また、作成したガイドの更新維持やノウハウの共有も課題であった。そこで担当者会議では、2012年度の活動計画として、これらのウェブ上のガイドの共通化を目標に、海外で実績のあるLibGuidesを利用者向けガイドの全メディアセンター共通サービス基盤として検討することとした。

2012年9月にイベント・カレンダーの作成や会議室の予約などLibGuidesの付加的な機能とともに、中心的な機能となるガイド作成機能のトライアルを実施した。この結果、簡単なレクチャーを受ければ容易に使用できる、書影表示やOPACへのリンク作成など図書館のガイドに特化した機能が準備されている、共通のガイドだけでなく各メディアセンターの個別用途にも独立した形で利用できる<sup>6)</sup>、など機能面においてメディアセンターの共通サービス基盤として活用できる可能性が高いとの感触を得る一方、実際の利用指導に耐えられるガイドになるかを実証したうえで継続契約の可否を判断すべきとの結論に至った。そこで各メディアセンターでオリエンテーションが多くなる2013年の春学期に、LibGuidesで作成したガイドを実際の利用者の説明に使用して評価を行うことを目標に、全メディアセンター共通ガイド(以下、共通ガイド)の作成に取り掛かった。

### 3 共通ガイドの作成

共通ガイドとしては、各メディアセンターの利用指導で必ず言及する、もしくは言及する機会の多いテーマを中心に以下のものを作成した<sup>7)</sup>。

- (1) 学内の図書・雑誌を探す
- (2) 新聞を探す

- (3) 慶應義塾大学の学位論文を探す
- (4) 他の図書館にあるか調べる
- (5) 電子ジャーナル・電子ブックを使う
- (6) 慶應義塾・福澤諭吉について調べる

作成にあたり、それぞれのガイドを各メディアセンターで分担するとともに、「新聞を探す」(図1)や「慶應義塾大学の学位論文を探す」など各メディアセンターによって資料の探し方は異なるが、ガイドとしては共通化したほうが良いものは、1つのガイドの中にメディアセンター毎のページを作成することにした。また、この作業に合わせて利用者が直接参照するウェブページにおけるメッセージの日本語翻訳も行った。さらにLibGuidesでは、作成したガイドの一覧をトピックやグループ別に表示する契約機関毎のトップページが用意されている<sup>8)</sup>が、当面はこれを積極的に使用せず、各メディアセンターウェブサイトから共通ガイド固有のURLにリンクする形で運用することにした。こちらの方が各メディアセンターウェブサイトのページ構成を活かしてガイドに利用者を誘導できると判断したためである。本稿では個々のガイドの具体的な内容については省略するが、作業は2012年11月に開始し、ページのスタイル、問い合わせ先を表示するプロフィール、使用するアイコンの統一などを担当者会議で適宜検討しつつ、2013年1月には担当者会議の場で完成した全ガイドを確認した。そして2月には最終の微調整を行い、2013年3月1日に各メディアセンターウェブサイトからのリンクを行って共通ガイドとしての公開となった。



図1 「新聞」を探す

各メディアセンターでは、計画通り4月からの春学期オリエンテーションで、共通ガイドの利用を開

始した。なお後述するように、この間いくつかのメディアセンターでは各メディアセンター個別のガイド作成にも並行して取り組み、順次公開を開始している。

#### 4 導入評価、そして本格運用へ

2013年春学期における各メディアセンターのオリエンテーションが一段落した2013年5月から、担当者会議ではLibGuidesの本格運用に向けた評価を開始した。評価にあたって(1)作業効率、(2)ガイドの共有、(3)機能、(4)システム運用、(5)適用範囲拡大の可能性、の5点を評価ポイントとして各メディアセンターで報告書の作成を行い、担当者会議の主査が取りまとめて2013年9月のメディアセンター事務長会議に提出した。以下、評価ポイント毎に主な評価点を簡単に書き出してみる。

##### (1) 作業効率

図書館で使用するガイドに特化したウェブページ作成サービスであることから、定型のテンプレートを利用して簡便な作成が可能である。

##### (2) ガイドの共有

全ての機能がウェブ上で提供されるため、複数の作業員ができあがりのイメージを共有して協同で作成作業や作成後の管理ができる。

##### (3) 機能

各ガイドの利用状況を手軽に把握できる統計機能が準備されている。外部のサイトへのリンク切れを一括してチェックできる。

##### (4) システム運用

運用にあたり図書館側システム担当者の負担がない。

##### (5) 適用範囲拡大の可能性

各種オンライン・サービスの操作説明などが今後の共通ガイドとして見込める。

これらの評価点に加え、実際のオリエンテーションにおいて十分活用できることも確認できた。なお、評価にあたり担当者会議として利用者の声を直接収集することはしなかったが、一部メディアセンターの利用者からは「インターネットが苦手でもページを見れば利用しやすい」「図書が写真入りでわかりやすい」など主にインターフェース面で良い評価が寄せられ、提供されるガイドの内容そのものにも高

い評価を得た。

この結果を受けて、LibGuidesをウェブ上の利用者向けガイドの全メディアセンター共通サービス基盤とするとともに、さらに共通ガイドの拡大を図っていくこととし、2013年9月の担当者会議において本格運用に移ることを確認した。

## 5 突然のバージョンアップ

本格運用開始から間もない2013年11月、LibGuidesの管理画面に突然Ver.1からVer.2へのバージョンアップ告知が表示され、急遽対応を迫られることになった。ウェブ上のサービスを利用する以上、提供元の都合によるこのような事態は避けられない面もあるが、何の前触れもなかったために正直戸惑った部分もある。とはいえ、Ver.2ではガイドの編集機能が改善されるなどメリットもあり、Ver.1では実現できていない日本語によるガイド検索も期待できることから、2014年秋学期までの移行を目指すことにした。実際の移行作業は、まずSpringshare社が2014年6月にメディアセンター全体のVer.1ガイドをVer.2へ変換し、7月以降担当者会議で変換結果を確認する形で進行した。確認作業中はガイドの新規作成や修正が行えないため、極力迅速に進める必要があった。またVer.2で新設された機能に既存のガイドを適応させるため、若干の修正も必要になった。担当者会議では、これらの作業に分担して取り組み、秋学期が始まる9月末にVer.2への切り替えを実施して移行を完了させた。ちなみにこの間、利用者にはVer.1を提供しながら裏側でVer.2への移行作業を行ったため、利用者によるガイドへのアクセスに影響は出なかった。このようにして突然降って湧いたバージョンアップを乗り越えることができ、その後間もなく、期待していた日本語によるガイド検索も実現した。

## 6 共通ガイドの拡大

導入評価の期間中でも、担当者会議では共通ガイドの拡大について意見が出ていた。テーマとしていくつかの候補もあがっていたが、今後増えることが予想されるクイックマニュアル的な事例として「初めてのRefWorks」<sup>9)</sup>のみを本格運用に先駆けて作成することにし、その他は本格運用開始後とした。一方、前述したバージョンアップの対応もあり、具

体的な拡大の検討に取り組んだのは2014年5月以降となった。優先的に作成するテーマとして以下のガイドを担当者会議で選択した。

- (1) KOSMOS<sup>10)</sup> ヘルプ
- (2) 電子ジャーナルリスト<sup>11)</sup> の使い方
- (3) 各種データベースの使い方

優先順位の高かったのは「KOSMOSヘルプ」だったが、2014年度中にKOSMOSのバージョンアップが計画されていたこともあり、作業の重複を避けるためKOSMOS新バージョンの稼働を待ってから取り掛かることとし、まずは「電子ジャーナルリストの使い方」<sup>12)</sup> (図2)に取り組んだ。このガイドは、2015年2月に「電子ジャーナルリスト」のトップページからリンクが設定されて公開となった。



図2 「電子ジャーナルリストの使い方」

このほか、全メディアセンターが利用するデータベースナビ<sup>13)</sup>の稼働に伴い、「データベースナビFAQ」<sup>14)</sup>もLibGuidesで提供を開始した。

続いて「各種データベースの使い方」に取り組む計画となっていたが、全学における文部科学省「スーパーグローバル大学創成支援」事業<sup>15)</sup>の開始に合わせ、2014年12月の担当者会議でこれまで作成した共通ガイドの英語版を先行させることにした。公開の目標を留学生の利用が見込まれる2015年秋学期に設定して、翻訳を担当する学内のプロジェクトチームへ作業を依頼し、出来上がった文案を元に各ガイドの英語版を分担して作成することにした。若干の用語の統一などを行い、英語版の共通ガイドが、予定よりも早く2015年6月末に完了して公開となっている。なお、この原稿を書いている2015年7月現在、担当者会議では引き続き2015年度中の公開を目指してKOSMOSヘルプのほか、日経NEEDS、

PubMed, Mendeley<sup>16)</sup> など、各種データベースや文献管理ツールの使い方をテーマに共通ガイドのさらなる拡大に取り組んでいる。

次章からは導入以来、各メディアセンターが個別に取り組んだLibGuides活用の主な事例を紹介する。

## 7 学部生対象のパスファインダー

三田メディアセンター（以下、三田）での活用事例としては、(1)学部生全般向けのパスファインダーである「資料の探し方」、(2)文献探索ツアー<sup>17)</sup>対象ゼミのパスファインダーである「ゼミ別基本資料」(図3)、(3)2015年度試行中の「文献探索ツアーアンケート」の3つを挙げることができる。



図3 「ゼミ別基本資料 (小山ゼミ)」

三田のウェブのパスファインダーは、2001年頃「学部学生のための情報検索ツール選」として提供を開始した。2002年には「資料の探し方」と名称変更され、以来10年にわたり年1回の全体改訂に加え、各担当が随時変更・修正を行う体制で、シンプルなHTMLページとして維持され続けていた。

2009年頃「ゼミ別基本資料」を新設したが、HTML作成の負荷もあり、簡単な資料一覧やリンク集程度の内容であった。この状況に風穴を開けるきっかけとなったのが、LibGuidesの導入である。2012年～2013年度の試行運用期間中にデータを移行し、2014年度から正式運用となったことで、一気に内容が充実し、作成ページ数も増えることとなった。無機質になりがちだった資料一覧に、表紙画像やKOSMOSへの所蔵リンクを簡単に追加できるようになったことで、利用者にとって親近感が持てるインターフェースになった。また、内容の充実に伴い文献探索ツアーでも積極的に広報され、「ゼミ別基本資料」

のページをデータベースアクセスの入り口にしている学生の様子なども確認できるようになってきている。三田で作成・公開中の114ガイドのうち、93ガイドが「ゼミ別基本資料」であり(2015年6月現在)、文献探索ツアーを実施するたびに改訂作業が施されるので、最新の情報を保つ仕組みが確立できていることが運用上重要な点である。

2015年度には、LibSurveys機能を活用して「ゼミ別基本資料」にアンケートを埋め込み、文献探索ツアーに参加した教員・学生からフィードバックを得る取り組みも開始した。ウェブアンケートの性質上、回答率は高くないものの、自由記述により有益なツールに関する情報やサービス改善の参考になる意見を得ることができており、オリエンテーション後のゼミとの関係強化、「ゼミ別基本資料」のブラッシュアップとさらなる宣伝という目的を果たしている。三田のレファレンス担当の主軸サービスである文献探索ツアーを補強する手段として、「ゼミ別基本資料」「文献探索ツアーアンケート」が活用されている。

今後の活用に向けては、学部生全般向けの主題別ガイドの充実が挙げられる。「資料の探し方」にいくつかの主題別ガイドは作成されているが、1件ごとの作成には相応の時間を要するため、思うように増やせていない。またガイドが多くなればなるほど、更新作業が業務の負担となるため、無秩序に増やすこともできず、適切な方法を模索中である。「ゼミ別基本資料」に主題のタグ付けを施しているものの、目立ちにくく構造的な整理ができていないため主題別に構成されているとは言えない状況である。既存の運用体制をうまく維持しながら、改良を加えていきたいと考えている。

## 8 利用案内として

薬学メディアセンター（以下、薬学）がLibGuidesを利用したウェブページを作成、公開したのは他キャンパスのメディアセンターよりやや遅れた2014年3月末である。テーマ別レファレンスガイド集の提供を主とした他キャンパスのメディアセンターとは異なり、ウェブサイトの“本文”として活用している。

それまでの薬学のウェブサイトは左端にインデックス、中央から右側のスペースに文章などを表示す

る形であったため、内容を充実させるほど縦長になってしまい、効果的な情報の見せ方ができず、スマートフォン対応も手つかずの状態だった。かといって予算をかけた大がかりな改修が必要なほどの規模ではなく、他キャンパスのメディアセンターが着々とLibGuidesで公開していく各種資料リストに相当するコンテンツの蓄積もない。そこで思いついたのが、ウェブサイトの「本文」をLibGuidesに置き換えることだった。

操作を覚えながらの約3週間の作業で、9個のページで構成するガイドを作った。当初トップページもLibGuidesで作成することを考えたが、LibGuidesは各メディアセンターウェブサイトからのリンクで運用することが前提とされたため、インデックスと「お知らせ」を表示するトップページは変更せず、記述を中心とする「利用案内」「資料の検索」「オンラインリクエスト」「リンク」の4つのコンテンツを再構成してLibGuidesに移した。画像を中心とした「開館カレンダー」、「アクセス」はそのままHTMLファイルで残し、LibGuides内の「利用案内」ページからのリンクでも見られるようにした(図4)。トップページからLibGuidesに飛ばす、従来提供していた情報はすべてLibGuidesの中で網羅している。また、関連事項をできるだけまとめて提示するため、「各種資料リスト」や「電子リソース」のボックスは「所蔵資料」と「資料の検索」、「資料の利用」という複数のページで繰り返して使っている。



図4 「薬学メディアセンター利用案内」

現在トップページのデザインの変更作業を進めており、それに合わせてLibGuides内で使う画像のデザインも更新している。この原稿が読まれる頃には、トップページとLibGuides部分との親和性をよ

り高めたかたちで提供できているはずである。これから制作する英語版ウェブサイトの「本文」もLibGuidesで作成する予定である。

## 9 iPadで学習しよう！

信濃町メディアセンターがLibGuidesで作成した「iPadで学習しよう！ 医学部2・3年生向け」サイト(図5)は、公開直後から全塾共通や他のメディアセンターのガイドを押さえて長期間に渡りアクセス数トップを記録した。これは2013年度の医学部2年生への「iPad配布プロジェクト」と連携していることによる。以下にプロジェクトの活動とともに、その中で「iPadで学習しよう！」サイトの果たした役割を紹介する。



図5 「iPadで学習しよう！」

このプロジェクトは、教育・学習環境の改善に熱心な医学部生が中心となって医学部教育へのタブレット型端末機器の導入を提案し、医学部長主導で実現したプロジェクトで、医学部が創立100年を迎える2017年度には医学部2年生から6年生までがiPadを持つことを目指している。プロジェクトを推進するにあたっては、医学部教育統括センターの門川教授をリーダーに技術系・事務系職員そして医学部生も加わって、電子教材を積極的に活用するための環境づくりを行った。

メディアセンターでは、LibGuidesによる電子医学教材提供のための「iPadで学習しよう！」サイトの立ち上げと「日本語電子教科書利用実験」を担当した。「iPadで学習しよう！」サイトでは、学部学生向けにシラバスで紹介されている教科書と参考書を印刷版、電子版ともに科目別に表紙の画像付で提供した。また、医学部生よりシラバス指定の教科書

以外にも、同じくらい有用な教科書の掲載希望があり、それらは『先輩のおすすめ』として掲載した。これらの構築にトライアル中のLibGuidesを使うことで、短期間に整ったウェブサイト構築をすることができ、表紙画像の表示なども容易に対応できた。正式導入後には、「電子ブックで使える教科書・参考図書」のページも追加した。

電子教科書利用実験においても、コンテンツの紹介や電子ブック閲覧アプリのダウンロードの手順などを「iPadで学習しよう！」サイトで案内した。サイトの周知は、2013年4月に行われた学部主催のiPad配布ガイダンスとメールを主体にしたが、2年生科目の解剖・組織学授業中にも説明を行っている。

さらにiPad配布とともに、2013年度には信濃町キャンパス内のWi-Fi環境の整備が進み、学生は講堂、実習室、自習室等でネット環境にアクセスできるようになり、授業中の利用、自習、またレポート作成のために活用している。環境の整備にともない「iPadで学習しよう！」サイトへのアクセス数も増えたが、iPadの活用に不慣れな学生のために、各学年数名の学生が「iPadサポート学生委員会」を立ち上げ、同級生や下級生に対して技術的なサポートも行っている。学生委員会が立ち上げた公式ウェブサイトでは、iPadの活用方法やおすすめアプリなど、iPadの使い方や困った時に参考となる情報が掲載されているとともに、「iPadで学習しよう！」サイト参照のためのリンクが設けられている。今後も引き続き、学生委員会と協力しながら、内容を充実できるように維持していきたい。

## 10 おわりに

この間の取り組みを振り返ってLibGuidesに対して率直に感じることは、デザインにこだわるのではなく、質の高いガイドを手軽にかつタイムリーに提供することが何よりも重要で、LibGuidesではそれを実現できることである。また、この仕組みを利用すれば、例えばあるテーマに関心のあるメディアセンターが最初にガイドを作成し、それをプロトタイプに共通ガイドに成長させることもできるだろう。共通ガイドにならなくても、そのガイドに掲載された解説などを他のメディアセンターで積極的に再利用することだけでも有効である。海外ではサブジェクトライブラリアンが専用のガイドを作成す

る使い方が主流なようだが、チームで仕事をすることが多いと思われる日本の図書館ではLibGuidesのもつ共有機能を最大限に生かしていくべきだろう。LibGuidesにはVer.2になってから印刷機能が低下するなど全く課題がない訳ではない。しかし、共通ガイドにしる、各メディアセンター個別のガイドにしる、これらを共有しながら維持していくツールを手に入れたことが何よりの収穫だったと思う。

### 注・参考文献

- 1) Springshare社のウェブサイトは以下の通り  
<http://www.springshare.com/libguides/>  
2015/07/17 Accessed
- 2) 天野絵里子, 「つながるLibGuides: パスファインダーを超えて」, カレントアウェアネス-E, No.274 (2013)  
<http://current.ndl.go.jp/e1410>  
2015/7/17 Accessed
- 3) <http://libguides.com/community.php>  
2015/07/24 Accessed
- 4) 全メディアセンターでのレファレンスに関する共通課題を調整するために、各メディアセンターのレファレンス担当者の代表で構成される会議体
- 5) 本稿の「7 学部生対象のパスファインダー」で三田メディアセンターの事例に言及している。
- 6) LibGuides CMSを契約した場合には、グループ機能が使えるようになり、グループ毎に独立したトップページが持てる。
- 7) それぞれのガイドは以下のURLを参照。  
「学内の図書・雑誌を探す」  
<http://libguides.lib.keio.ac.jp/keiocatalog>  
「新聞を探す」  
<http://libguides.lib.keio.ac.jp/newspaper>  
「慶應義塾大学の学位論文を探す」  
<http://libguides.lib.keio.ac.jp/dissertatio>  
「他の図書館にあるか調べる」  
<http://libguides.lib.keio.ac.jp/othercatalog>  
「電子ジャーナル・電子ブックを探す」  
<http://libguides.lib.keio.ac.jp/e-resource>  
「慶應義塾・福澤論吉について調べる」  
<http://libguides.lib.keio.ac.jp/keio>  
2015/7/17 Accessed.
- 8) <http://libguides.lib.keio.ac.jp/>  
2015/7/17 Accessed.

- 9) RefWorksはProQuest社が提供するウェブ上の文献管理システム、「初めてのRefWorks」は以下のURLでアクセスできる。  
<http://libguides.lib.keio.ac.jp/refworks>  
2015/7/17 Accessed.
- 10) 「KOSMOS」は、慶應義塾大学メディアセンターの蔵書検索システム  
<http://kosmos.lib.keio.ac.jp/>  
2015/7/17 Accessed.
- 11) 「電子ジャーナルリスト」は、慶應義塾大学メディアセンターが契約する（一部無料のタイトルも含む）電子ジャーナルタイトルの一覧を提供するシステム。  
<https://auth.lib.keio.ac.jp/ej/>  
2015/7/17 Accessed.
- 12) 「電子ジャーナルリストの使い方」  
<http://libguides.lib.keio.ac.jp/ejlist>  
2015/7/17 Accessed.
- 13) 「データベースナビ」は慶應義塾大学メディアセンターが契約する各種データベースを検索するシステム  
<https://auth.lib.keio.ac.jp/db/>  
2015/7.17 Accessed.
- 14) 「データベースナビFAQ」  
[http://libguides.lib.keio.ac.jp/dbnavi\\_faq](http://libguides.lib.keio.ac.jp/dbnavi_faq)  
2015/7/17 Accessed.
- 15) 学校法人慶應義塾2014年9月26日付け報道発表  
<http://www.keio.ac.jp/ja/news/2014/osa3qr000000aacm.html>  
2015/7/17 Accessed.
- 16) 日経NEEDSは日本経済新聞社が提供する総合経済データベース、PubMedは米国国立医学図書館が無料で提供する世界最大の医学文献データベース、Mendeleyは学術論文の管理とオンラインでの情報共有を目的にした無料の文献管理ツール。
- 17) 三田メディアセンターが春学期を中心に通年で開催している図書館オリエンテーション。データベースとレファレンスツールの紹介と館内ツアーで構成され、研究会（ゼミ）単位での開催が多い。以下のウェブページを参照。  
<http://www.mita.lib.keio.ac.jp/guide/orientation.html>  
2015/12/16 Accessed